令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・活用区分に関して大多数が目標値を上回っている。知識や技能を思考したり表現したりする際に活用するような場を多く設けたことによるものと考えられる。身に付けた力を着実に問題解決に生かすことができている様子が伺える。

(2) 課題

- ・気付いたことや感想などを表現する機会を多く設定し、自分の考えに自信をもつことができるようにすることと、それを文章で正しく表現できるようにする力を育成することが課題となっている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値に対する達成率は、約7割であり、約3割の児童が目標を達成していない。前年の4年生に比べて達成率が低くなっている。	/	/
第5学年	目標値に対する達成率は、約8割であり、約2割の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が5分増加している。	目標値に対する達成率は、約7割5分であり、約2割5分の児童が目標を達成していない。	/
第6学年	目標値に対する達成率は、約8割であり、約2割の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約5分減少した。	目標値に対する達成率は、約8割5分であり、約1割5分の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約5分増加した。	目標値に対する達成率は、約8割であり、約2割の児童が目標を達成していない。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値とほぼ同じポイントで、知識・技能の定着が見られる。領域別にみると、言葉の特徴や使い方に関する事項のポイントが低い傾向がある。主語や述語、修飾語などの文構造の理解を深める必要あると考える。	目標値を5ポイント上回っている。領域別にみると、「文章を書く」が比較的ポイントが低い傾向にある。文字数や内容に制限がある文章を書く機会が少ないことによるものと考えられる。	「漢字を書く」「文章を書く」領域での無回答が、他の領域と比較して多くなっているため、引き続き既習の漢字を文章で活用したり、自分の考えを文章で表現したりする機会を増やし、自信をもたせることが必要と考える。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生は6.4ポイント、6年生は10.4ポイント目標値上回っている。「漢字を読む」の問題についてはどちらの学年も比較的身に付いているが、5、6年生共に「言葉の学習」分野においてやや苦手意識が見られる。	5年生は7.3ポイント、6年生は9.7ポイント目標値上回っている。5年生は「文章を書く」において、指定された書き方で文章をまとめる設問、6年生は報告する文章を書く設問において、やや苦手意識が見られる。	5年生6年生の両学年ともに「書くこと」の領域において無回答が1割5分程度見られる。また他領域に比べ、「漢字を書く」の領域の無回答が6年生で約1割、5年生で約1割5分見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ドリルやプリント、単元ごとの小テストを活用し、繰り返し練習させることで、文字の定着を図ることができるようにする。	・思ったことを話したり書いたりする機会を多く設けることで、自分の考えをもち、自ら表現することができる力を育てる。	・内容や感想など、自分の考えや思いを伝え合う機会をもつことで、言葉で伝え合う楽しさを感じることができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ドリルやプリント、単元ごとの小テストを活用し、繰り返し練習させることで、漢字や言葉の使い方の定着を図ることができるようにする。	・指定された長さで文章を書く活動を取り入れることで、考えを明確にしながら文章を書くことができるようにする。	・文章に対する感想や意見を書いたり話したりする学習から、考えが相手に伝わる良さに気付きながら、意欲的に活動できるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・言語事項の指導内容を充実させることで、敬語や漢字の由来などの言葉の学習の定着を図る。 ・主語や述語、修飾語・被修飾語の関係を文構造内で意識させることで、文法に関する知識の定着を図る。	・事例や理由を列挙することや、図表を取り入れて分かりやすく書く方法を取り入れることで、条件に合わせて文章を書く力、自分の意見を明確にして文章を書く力、大切なことを落とさずにまとめる力を伸ばす。	・視点を明確にしながら感想や意見を話したり書いたりして表現する喜びを感じるとともに、対話する機会を設定することで、考えを深め合うことの良さに気付き、主体的に活動できるようにする。

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・資料を活用して、資料を基に課題を解決する活動を取り入れることで、思考力や判断力などを身に付けることができている、
- ・情報の正しい読み取りや日常との関連を意識付けることで、知識の理解を高めることが

できた。

(2) 課題

- ・ 設問別の正答率を分析すると、目標値に達していない設問のすべてが知識・技能を問うものである。このことから、全体的な水準を考えた時に、やや知識・技能の習得に課題があると言える。
- ・ 目標値に達しなかった設問の多くが、イラストや地図などの読み取りであることから、知識・技能の観点の中で、特に資料活用の技能に課題があると言える。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値に対する達成率は約7割2分であった。前年の4年生に比べて達成率が少し下回っている。		
第5学年	目標値に対する達成率は約7割5分であった。前年の5年生に比べて達成率が少し上回っている。	目標値に対する達成率は約7割である。前年の4年生に比べて達成率は下回っている。	
第6学年	目標値に対する達成率は約8割である。前年の6年生に比べて達成率が回っている。	目標値に対する達成率は約8割である。前年の5年生に比べて達成率が上回っている。	目標値に対する達成率は約8割であった。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値に対して0.4ポイント上回っている。しかし、領域別に見ると、生産や販売が目標値とほぼ同値であり、正しい知識を身に付けていない児童が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値に対して6.4ポイント上回っている。領域別に見ると、市の様子の移り変わりはほぼ目標値と同値で、平均正答率も6割以下とかなり低く、社会的事象の視点から捉え、理解を深める力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識の定着は十分とはいえない児童もいるが、自ら思考・判断する力は十分ある児童が多い。また、言語活動で絵や図、ポスター、新聞やリーフレットなどに表現する活動にも意欲的に粘り強く取り組む児童も多い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5学年は、目標値に対して、5.6ポイント上回っている。すべての領域において目標値より上回っているが、他の領域に比べ「生活環境を支える活動」は目標値と3.6ポイントしか差がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5学年は、7.6ポイント上回っている。すべての領域において、目標値より上回っている。先人の働きについて資料をもとに関g苗を表現したり、判断したりする問題の正答率が低い。 ・ 第6学年は、8.8ポイント 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6年生は、選択問題は目標値に対して10.2ポイント、担当問題は目標値に対して6.6ポイント上回っているのに対して、記述問題は2.9ポイントしか上回っていない。知識の定着を図るだけでなく、自分から進ん

<ul style="list-style-type: none"> 第6学年は、目標値に対して7.9ポイント上回っている。 	<p>上回っている。日本の食料生産のつひ</p>	<p>で考えられるような、教材の提示などをしていく必要がある。</p>
---	--------------------------	-------------------------------------

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 日常的に地図帳を活用することによって、第3学年は地図記号、第4学年は等高線など、情報の読み取りを習慣化できるようにする。 単位時間ごとに学習課題を明確にし、児童がその時間に何を学んだのかが分かるまとめを提示することで、学習を確実に積み上がるようにする。 体験活動や実生活とのつながりを意識させる授業展開により、知識・技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言や文章、絵や図、ポスター、新聞やリーフレットなど様々な表現活動を行う。内容を教科書やその他資料を基にすることで、自分で考え、まとめることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童がイラストや写真資料から気付いたことや分かることを話し合うことで、課題を解決するための学習問題を自分たちで設定し、意欲的に取り組むことができるようにする。 発言以外にもICTやノートでの表現活動を重視することにより、自信をもって取り組むことができるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 日常的に地図帳を活用すると共に、第3学年で学習する地図記号と、第4学年で学習する等高線を用いて、第5学年の国土の学習の土地利用の課題解決を行うなど、資料活用の技能を系統的に身に付けられるようにする。 グラフなどから分かる傾向などを基に学習課題を見出し、情報を抽出して、それらに関連付けながらまとめていく活動を行うことで、資料を基に課題解決することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事を用いたスピーチ活動や、社会的事象に関する今日的な課題についての議論を取り入れることで、考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。 児童同士が議論を行う際には、調べた内容を振り返ったり、課題を共有したりすることで、既習の知識や生活の中での経験を基に話し合わせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項や日常の経験から児童がもっている知識に対し、疑問を感じるような資料を提示し、調べる意欲をもつことができるようにする。また、過去と現在の写真を比較して、変化の要因を考える方法などにより、学習課題を作ることができるようにする。 「めあて」と「まとめ」を「問い」と「答え」の形で設定することで、児童が自分事として、調べる目的を明確にもてるようにする。

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 「数と計算」領域の分数の相対的な大きさについての理解や小数との変換について重点的に学習を進めたことで、どの学年でもこれらの目標値を上回った。
- 「図形」領域の作図の仕方については、どの学年でもこれらの目標値を上回った。

(2) 課題

- ・「図形」領域での目標達成率が比較的ポイントが低く、特に図形の特徴やそれらを活用することに課題がある。
- ・グラフや平均値などの数値から分かることを正確に読み取り、自分の考えの根拠として説明することに課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値に対する達成率は約7割8分であり、約2割2分の児童が目標を達成していない。前年の4年生と比べて達成率が上昇した。		
第5学年	目標値に対する達成率は約7割2分であり、約2割8分の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約5分減少した。	目標値に対する達成率は約7割7分であり、約2割3分の児童が目標を達成していない。前年の4年生と比べて達成率が減少した。	
第6学年	目標値に対する達成率は約7割であり、約3割の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約4分減少した。	目標値に対する達成率は約7割5分であり、約2割5分の児童が目標を達成していない。昨年度と比べて、目標を達成した児童の割合が約8分減少した。	目標値に対する達成率は約8割3分であり、約1割7分の児童が目標を達成していない。前年の4年生と比べて達成率が上昇した。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値に対して7.4ポイント上回っている。しかし、領域別に見ると「図形」が比較的ポイントが低く、円についての理解不足が理由であると考えられる。	・目標値に対して7.0ポイント上回っている。しかし、領域別に見ると「数と計算」が比較的ポイントが低く□を使った計算についての説明する経験が不足していると考えられる。	・わり算の「余りを切り上げて答えを求め、その理由を説明する」問題の無回答率が最も高くなっていることから、自身の考えを整理し、伝わるように説明しようとする態度を養っていく必要があると考えられる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値を5年は6.2ポイント、6年は8.3ポイントそれぞれ上回っている。しか	・目標値を5年は10.8ポイント、6年は8.8ポイントそれぞれ上回っている。し	・角の大きさについて説明したり、体積の求め方について説明したりする問題の

し、出題内容別に見ると「ひし形」や「円周の長さ」を求める問題など「図形」に関する問題が比較的ポイントが低く、一つ一つの図形に対する理解が不足していると考えられる。	かし、二次元表や円グラフ、平均値などから読み取れることについて説明する問題が比較的ポイントが低く、読み取ったことを自分の言葉で説明するが不足していると考えられる。	無回答率が高くなっていることから、図形について分かったことを整理し、伝わるように説明しようとする態度を養っていく必要があると考えられる。
---	---	--

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基本的な図形について、具体物を操作しながら、その性質や特徴について理解を促すことで、知識を確実に身に付けることができるようにする。	・具体物を使って考えたり、考えたことを図や言葉に直して表現したりすることができる場を多く設定したり、視覚的に分かるようにしたりすることで、言葉での説明ができるようにする。	・日常生活の中から問題を設定し、計算の仕方をグループやペアで教え合ったり、形を組み合わせて模様を作ったりするなど、身に付けたことを実際に活用していく場面を意図的に設定することで、算数の有用性を感じることができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・円や平行四辺形などについて、その性質や特徴について、具体的な図形を用いて理解を促すことで、知識を確実に身に付けることができるようにする。	・考えの根拠を式や図表、文字を用いて表現したり、他者が表現したものを自分の言葉で説明したりする機会を増やすことで、根拠をもってそれぞれの考えを説明することができるようにする。	・日常生活の中から問題を設定し、計算の仕方をグループやペアで教え合ったり、形を組み合わせて立体を作り、他の教科で活用したりするなど、身に付けたことを実際に活用していく場面を意図的に設定することで、算数の有用性を感じることができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・四角形や円の面積や周の長さの求め方について、これまで学習した図形の性質と結び付けながら、分割したり計算したりする活動を繰り返し行い、理解を促すことで、図形についての知識を確実に身に付けることが	・自力解決の時間に、グラフや図、式、言葉など、様々な方法で自分の考えを書き、発表させることで、多角的に事象を捉え、表現することができるようにする。	・計算の仕方をグループやペアで教え合ったり、習ったグラフや図形を活用して、他の教科等の問題を解決したりするなど、身に付けたことを実際に活用して

できるようにする		いく場面を意図的に設定することで、すすんで既習事項を活用することができるようにする。
----------	--	--

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 実物に触れたり、生活経験を想起したりするなど、自然事象との出会いの場면을工夫したことで、問題を発見でき、意欲的に問題解決に取り組むことができた。
- ・ 指導・助言を工夫し、生活体験や既習の学習を想起させることで、予想を立てられる児童が増えた。

(2) 課題

- ・ 実験器具の使い方や用語など、基礎的な内容をさらに定着させる必要がある。
- ・ 中学年において記述問題に対し、説明や理由を論理的に書くことに課題がある。
- ・ 思考・判断が問われる問題を読み取ったり解いたりすることに課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値に対する達成率は約7割であった。前年の4年生に比べて達成率が少し下回っている。		
第5学年	目標値に対する達成率は約7割であった。前年の5年生に比べて達成率が下回っている。	目標値に対する達成率は約7割である。前年の4年生に比べて達成率が少し上回っている。	
第6学年	目標値に対する達成率は約7割である。前年の6年生に比べて達成率が少し下回っている。	目標値に対する達成率は約7割である。前年の5年生に比べて達成率が上回っている。	目標値に対する達成率は約7割5分であった。前年の4年生に比べて達成率が少し上回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値に対して2.1ポイント上回っている。しかし、領域別に見ると、観察カードの記入のしかた、方位磁針の使い方、電子天秤の使い方の正答率が目標値を大幅に下回っている。実験の機会と、用語を正しく理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値に対して0.8ポイント下回っている。領域別に見ると、特に、実験結果を推測する問題においては、正答率が目標値を下回っている。自然事象について、学習したことを用いて説明したり、原因と結果を結び 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に記述式の問題では、単語や短文で答えるものを問わず無回答の割合が2～3割程度であった。自分の考えに自信をもつことができないことによるものと考えられる。

して活用したり、反復練習をしたりする機会が少ないことによるものと考えられる。	付けて考えたりする機会が少ないことによるものと考えられる。	
--	-------------------------------	--

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値に対して5年は0.8ポイント、6年7.9ポイント上回っており、学年間で正答率に大きな差がある。 ・ 5年では、乾電池のつなぎ方と電流の大きさの関係、星座早見の使い方、星の色や明るさ、位置や見え方の正答率が目標値を大きく下回っている。 ・ 6年では、堆積のはたらきや顕微鏡の倍率を上げる方法、ふりこの振れ幅についての理解において、目標値と同等ではあるが正答率が3割程度である。 ・ 実験の機会と、用語を正しく理解して活用したり、反復練習をしたりする機会が少ないことによるものと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値に対して5年は1.8ポイント、6年は8.8ポイント回っており、学年間で正答率に大きな差がある。 ・ 5年では目標値と同程度の正答であった。水のしみこみ方と粒の大きさの関係を調べていることを推測する問題（短答）の正答率が3割であるため、知識の定着を図りたい。 ・ 実験の結果から別の実験の予想をする機会が少ないことによるものと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年・6年どちらも、記述式の問題では、単語や短文で答えるものを問わず無回答の割合が1割未満であり、問題に対してあきらめずに答えようという姿勢が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人が実物を用いて実験観察し、用具の正しい使い方を身に付ける。また、具体的な事象を体験的に結び付けることができるようにする。 ・ 観点を絞って実験観察をさせることで、比較や関係付けを意識的にできるようにする。 ・ 知識の定着を図るために、演習の時間を取り入れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「理科ノートの達人」を参考に、考察の書き方を中心に、表現の仕方を身に付けさせる。 ・ 生活体験や既習の学習を想起させることで、学習したことを基に原因と結果を結び付けて考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験や観察において、自分の考えを短い文章で表現する機会を多く設定することで、自分の考えに自信をもつことができるようにする。 ・ 体験活動を取り入れたり、資料の提示の仕方を工夫したりすることで、問いをもたせ、自分事して取り組めるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が実物を用いて実験観察し、用具の正しい使い方を身に付ける。また、具体的な事象を体験的に結び付けることができるようにする。 中学年での既習事項を関連しながら学習に取り組み、定着した知識をさらに積み上げられるようにする。 さらに、反復練習をさせることで、新しく得た知識の定着を図ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を表などに整理したり、「理科ノートの達人」を参考に、表現の方法を身に付けさせる。 根拠をもって実験の結果を予想し、実験方法を考えさせ、一つの実験の結果を基に他の実験の結果を予想したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習の流れに沿って、導入を工夫することで、自然事象への興味関心をさらに高めるようにする。 「理科ノートの達人」を参照させる機会を設定することで、自分の考えに自信をもつことができるようにする。

令和7年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・昨年度の1番の課題としてあげられた「アルファベット」に関して、今年度はほぼすべての項目で平均を超えることができた。
- ・「英文の完成」「英作文」においても、すべての項目で平均を超えることができた。

(2) 課題

- ・「単語や表現の意味理解」を基本的にはできているが、さらに定着させる必要がある。
- ・「アルファベットの書き」においても、全国よりは高いが、もう少し伸ばせるよう授業内で書く活動を多く入れる必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

令和7年度結果	令和6年度結果
△効果測定のおぼすべての項目において平均を上回っていた。 ▽「アルファベットの書き」は、2つの項目で平均を若干下回った。（しかし、昨年と比較し、正答率が大幅に増えた。）	△単語や表現の意味理解や英文の作成に関しては、すべての項目で上回っていた。 ▽「アルファベットの読み書き」は、どれも平均を超えられていなかった。

(2) 分析（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 身近で簡単な話を聞き、その意味を理解することができている。 音声を聞いて、活字体の大文字や小文字を書く活動 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関する対話や、短い物語を聞き、場面、状況などを推測したり、話の概要を捉えたりすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 例文を参考にしながら、自分の好きな教科や、身近な人について簡単な語句や基本的な表現を用いて主体的に書くことができている。

に慣れていない児童がいる。	・例文を参考にしながら、身近な人ができることについて簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことが難しい児童がいる。	
---------------	--	--

3 授業改善のポイント（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに、小文字の書き方を全体で確認したり、練習したりする時間を設ける。 ・学習の中で英単語が出てきた際に、アルファベットを見せたり、読んだりする活動を取り入れることで、小文字の識別ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎単元の終末では、慣れ親しんだ簡単な語句を用いた例の中から言葉を選んで文章を書く機会を設ける。 ・学習した表現を用いて、友達のことについて伝え合ったり、伝えたことについて書いたりする機会を増やすことで、英語で書くことが慣れることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT と実際に話す機会を設けることで、主体的に英語を用いて伝えることができるようにする。 ・活動の途中でよいやり取りをしているペアを紹介したり、表現を書かせたりすることで、更に意欲的に取り組むことができるようにする。

令和7年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・地域と関わる取り組みも多く、学校や地域の人々・場所により一層親しみ、愛着をもち、すすんで関わろうとする児童の様子が見られた。
- ・それぞれの単元で、児童一人一人が思いや願いをもち、自分の考えを表現することができた。

(2) 課題

- ・地域と関わる取り組みでは、日頃からすすんで関わろうとする態度が求められる。
- ・児童一人一人が思いや願いをもち、自分の考えを表現する力には個人差がある。
- ・児童一人一人の考えを広げ、気付きの質を高め、自分自身の成長にも気付くことができるようにすることが課題である。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業の終わりや単元の終末に、振り返りの時間を確保することで自分と身近な人々や社会及び自然との関わりについての認識を深めること	・伝え合い、交流する場を工夫することで、自分の気付きを伝えるだけでなく、友達の発見したことに気付いたり、自分が発	・対象と関わる時間を十分に確保し、繰り返し関わったり試行錯誤して何度も課題に取り組んだりすることができるような活

とができるようにする。	見したことと比べたりし、気づきの質を高めることができるようにする。	動を設定することで、すすんで対象に関わることができるようにする。
-------------	-----------------------------------	----------------------------------

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の終わりや単元の終末に、振り返りの観点を示し、それに沿った振り返りの時間を確保することで、それまでの自分と比べて成長に気付くことができるようにする。 ・ 人と関わるよさを実感したり、人との関わりを通して自分と身近な人々や社会及び自然との関わりについての認識を深めたりすることができるように、話し合いの際に視点を明確にしたり、焦点化したりすることで、自分たちの生活を支えてくれていることに気付くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達や先生、地域の人、ゲストティーチャーなどとの交流の際、活動のねらいなど、事前の打ち合わせを十分に行って授業に臨むようにすることで、学校や地域を支えてくれている場所や人々についての考えを深めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の途中や単元終了後にイカすコーナーを設置し、自分の生活に生かしたことを紹介する場を設けて発表することで、すすんで関わることの良さを自覚したり、友達の生かし方の良いところを認めたりすることができるようにする。

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 個人指導の時間をとったり、児童同士でペアになり学びあう時間を増やしたりした。さらにICT機器を活用して範奏動画を見られるようにしたことで、技能の定着に一定の効果が見られた。

(2) 課題

- ・ 思いや意図をもって音楽表現を工夫していく時間を十分に取ることができなかったことに課題が残る。曲想と音楽の構造などとの関りについて理解するとともに、考えを出し合って音楽表現を工夫する時間を確保していくことが必要である。
- ・ 楽しく音楽に接する児童が多かった。音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに豊かな情操を培うために、学習の見通しをもちながら毎時間のめあてに向けて学ぶことができる環境を整えることが必要である。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 児童の状況に応じた個別指導を行ったりICT機器を適切に活用したりすることで、知識・技能を身に付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな表現の仕方を体験してから演奏したり音楽づくりをしたりすることで、表現を豊かにし、自分がもつ思いを明確にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に楽しく音楽に関われるよう、学習の見通しを可視化したり、児童同士で学びあう場面を増やしたりする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 楽譜を見ながら音色や響きに気を付けて合わせて演奏できるように音名やリズムをカードでくり返し学習し、必要に応じて個別指導を行う。 その音楽を形作っている要素を見つけて掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 強弱や旋律、フレーズなどの音楽を形作っている要素を視覚的に理解できるように色をつけたり図形を用いたりすることで、曲想の表現につなげられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らのめあてをもって学習に取り組むためにどうしたら良いか、具体例を挙げたりお手本となる児童の考えを共有したりする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形作っている要素の特徴を理解できるよう、楽曲に触れながら説明する。 範奏動画を配信することで、より楽器や楽曲に対する理解を深めると同時に、技能を高めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示された例を実際に体験することで、自分の考えをもちやすくする。 ICT機器を活用して自分の考えを共有することで友達の考えに触れ、さらに思いをひろげることにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって学習し自己の学びをふり返って確認できるよう、シートを活用したり具体例をあげて説明をしたりする。

令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ICT機器の活用する場面や方法の精選を行ったことにより、作業効率が上がったり、協同的な学びとして児童同士が作品を見合う機会が増えるなどした。

(2) 課題

- 図画工作科の学習が好きで、前向きに取り組む児童が多いが、自信をもって表現することが苦手な児童も多い。自分が発見したことや、活動の中で身に付いた技能を大切にしながら表現できるようにすることが課題である。
- 絵や立体、工作に表す、造形あそび、またその中での鑑賞の活動について、興味の偏りがあり、苦手意識をもっている児童がいる。どの学習にも主体的に取り組めるようにすることが課題である。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
用具の基本的な使い方を覚えたり、身の回りの材料を児童が集めたりして、用具や材料を自分の気持ちや感覚と一体となって扱うことができるようにする。	身の回りの材料に十分に触れたり、身近な作品を見る機会を増やしたりして、造形的な見方、考え方に気付くことができるようにする。	児童の日常的な感覚や思いを学習内容に取り入れ、新しい試みを見守ったり、励ましたりすることで表現活動に意欲的に取り組むことができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
材料の特徴や用具の扱いを児童の様子に合わせながら伝え、自分の気持ちや感覚とつなげて表現することができるようにする。	失敗を恐れず、繰り返し試していく活動を設定し、自分の表したいことを見付けられるようにする。	ねらいにそった活動の見取り（写真、動画）によって、励ましや価値付けを行い、自信をもつことができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
手ごたえのある材料や活動を取り入れることで、手などの力強さや巧みさを生かす。	ワークシートを活用して発想を広げたり、納得するまで表現方法を試すことができるようにしたりして、児童の表したい主題が明確になるようにする。	ねらいにそった活動の見取り（写真、動画）によって、励ましや価値付けを行い、自信をもって自分の生活の中の造形につなげることができるようにする。

令和7年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 実践的・体験的な活動をする際に、ICT 機器を活用して、動画を繰り返し流しておくことで、自分自身でやり方を覚えたり、手順を確認したりすることができた。また、児童同士が作品や振り返りを見合う機会が増えたり、良いところを見つけたりすることができた。

(2) 課題

- ICT機器を活用したり、資料を用意したりすることで、よりよい生活をするための知識・技能を身に付けることができるようにすることが課題である。
- 学習内容を児童それぞれの生活に生かして考えたり、工夫したり、実践しようとしたりする力が課題である。
- 個別に対応する時間が十分ではなく、個々の技能の差が大きくなってしまったり、苦手意識をもっていたりする児童がいる。学習内容を児童それぞれの生活に生かして考えたり、工夫したり、実践しようとしたりする力が課題である。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第5学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用したり、段階的な資料を用意したりすることで、学習したことを身に付けることができるようにする。 実技学習の際は保護者ボランティアに協力してもらい、個別に対応する時間を増やすことで、技能の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身近な家庭生活や学校生活を振り返る機会を題材の導入に設定することで、改善すべき点や課題を見付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを自分の生活に活かそうとする意欲を伸ばすために、グループワークなどを通して意見をまとめたり、新たな考え方に触れたりすることで、主体的に活動できるようにする。

(2) 第6学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を効果的に活用したり、段階的な動画や資料を参考にしたりして、知識をより深めることができるようにする。 実技学習の際は保護者ボランティアに協力してもらい、個別に対応する時間を増やすことで、目的に応じた技能の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な家庭生活や学校生活から課題を設定し、解決していくことを通して、これまで学んだ知識や技能を活用して、自分の生活がより良くなるように考えたり、工夫したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを自分の生活に活かそうとする意欲を伸ばすために、グループワークなどを通して意見をまとめたり、新たな考え方に触れたりすることで、視野を広げ、主体的に活動できるようにする。

令和7年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立久原小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 体力テストの結果、長座体前屈が全学年全国平均を上回っている。準備運動等で柔軟性を高める運動を取り入れた成果が出た。また、低学年（1～3年生）は、前年度と比較して、20mシャトルランは記録が向上している。

(2) 課題

- 自己の能力を高め、向上しようとする意欲・関心・態度に課題がある。
- 協同的な学ぶことや自分に合った課題の発見・解決の力に課題がある。
- 体力テストの結果、握力は全学年で全国平均を下回っている。また、低学年は反復横跳びが全国平均を下回り、高学年（4～6年生）は、昨年度同様、20mシャトルランが全国平均を下回る結果となった。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 指導方法や教材を工夫し、遊びの中で身に付けさせたい動きを経験できるようにする。児童が伸び伸びやってみる時間を 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく運動遊びのできる場や用具を用いることで、自分に合った場や遊び方を選ぶことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの時間を確実に設定することで、1単位時間の自己の高まりを実感することができるようにする。

<p>多く確保し、運動の楽しさに触れながら、様々な動きを身に付けられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動遊び等で、筋力や走力、俊敏性を高められる活動を多く取り入れることで技能を身に付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のよい動きを見付けることができるようにするために、見合う時間を確保し、考えたことを伝える機会を多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できていることを認めたり、励ましたりする声掛けを行うことで、きまりを守り、誰とでも仲よく運動に取り組むことができるようにする。
--	---	--

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・各単元での技能のポイントを明確にし、映像や模範等で示すことで、単元ごとの運動の行い方を理解できるようにする。また、スモールステップで取り組むことができるような支援をし、児童一人一人の課題を解決できるようにする。 ・健康な生活や体の発育・発達について理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードや ICT 機器を活用し、児童一人一人が明確なめあてをもち、学習に取り組むことができるようにする。また、チームや友達同士で対話する機会を増やし、仲間とともに、自己やチームの課題を解決していけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間を確実に設定することで、1 単位の時間の自己の高まりを実感することができるようにする。 ・児童の取り組みを認める声掛けや児童一人一人の課題に合った支援の声掛けを行うことで、「できる」楽しさを感じるようにする。また、児童の実態に合わせて規則を工夫し、誰もが運動の特性を味わいながら楽しみ、主体的に取り組めるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・各単元での技能ポイントを明確にした資料を活用することで、単元ごとの運動の行い方を理解することができるようにする。また、運動に苦手意識をもつ児童もスモールステップで取り組める支援を行い、児童一人一人が自己の課題を解決できるようにする。 ・心の発達及び不安や悩みへの対処、病気の予防について理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードや ICT 機器を活用し、毎回の授業で自己の課題とその解決に向けて取り組んだ内容を視覚化できるようにする。また、ペアやグループの活動を増やし、友達同士で課題解決に向けた話し合いを行わせ、解決していけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間を確実に設定することで、1 単位の時間の自己の高まりを実感することができるようにする。 ・児童一人一人の課題に合った声掛けを教師が行うと共に、児童同士が課題を協働的に解決する活動を通して、「できる」楽しさを味わわせ、主体的に取り組めるようにする。また、児童の実態に合わせてルールを工夫して、その運動の特性を味わいながら、活動に取り組むことができるようにする。